

あさけ いせき べつめい ひがししょうがっこうこうてい いせき
朝気遺跡（別名：東小学校校庭遺跡）

1967年（昭和42年）、東小の校庭の下水道工事で土器などが出てきました。1983年（昭和58年）までの5回の発掘調査で、校庭やその周りの深さ3.5m位までの地面の下から、およそ2000～1000年前の生活のようすをあらわすもの（下の□）がたくさん出てきました。



にしかんした つち なか
 西館下の土の中

このガラスケースの中の土器や木の下駄も、全てその時見つかった物です。

平安時代の甲府市は、「青沼郷」と「表門郷」の2つの郷があり、この地域は、青沼郷の中心的な集落だったそうです。

おも しゅつどひん いこう ひがししょう じめん した み もの
主な出土品・遺構（東小の地面の下から見つかった物）

土器、装飾品、木製品（げた・くし・人形・田舟・機織の一部など）、炭化米、種子（ひょうたん・くるみ・山桃など）、動物の骨や鹿の角、中近世の陶磁器、田んぼ・お墓の跡、弥生・古墳・奈良時代の住居跡、平安時代の集落跡など

※波下線の部分は、有機質遺物（普通の遺跡では腐ってしまう遺物）

あさけ いせき べつめい ひがししょうがっこうこうてい いせき とくちよう
★朝気遺跡（別名：東小学校校庭遺跡）の特徴

▽面積が広く（東小が中心）、見つかった物（出土品や遺構）

の種類の種類や量が多い

▽有機質遺物（普通の遺跡では腐ってしまう物）が多い

▽時代の幅が広い⇒弥生時代～平安時代（およそ2000～1000年前）



つぼかん やよいじだい
 壺棺（弥生時代）



こふんじだい
 げた・つぼ（古墳時代）

「朝氣」の由来

～この地区をなぜ「朝氣」と呼ぶようになったか？～

やまとたけるのみこと どうせい とき さかおりぐう と つぎ あさ さかおりぐう なんせい ほうこう
日本武尊が東征の時、酒折宮に泊まり、次の朝、酒折宮から南西の方向
けむり た あ みる た よ ちようしよく あさげ た
に煙が立ち上がるのを見て、そこへ立ち寄り、朝食（朝餉）を食べたことから、
“あさけ”（古くは“朝毛”とも）と名付けられたといわれています。

ひがししょう にしとなり くまのじんじや ばしよ やまとたけるのみこと ちようしよく た ばしよ
東小の西隣にある熊野神社の場所が、日本武尊が朝食を食べた場所
だという説もあるそうです。

じんじや かい くに かいたく とき ゆう くに しゅごしん
この神社は、甲斐の国が開拓された時につくられた邑（国）の守護神としてま
つられたという、歴史がある神社です。